

財政収支

25年度PB黒字化は困難

試算の甘さが招くツケ

財政収支の予測と実績は乖離が大きく、債務が膨張する可能性がある。

おぐろ かずまさ
小黒 一正
(法政大学教授)

政

府は2025年度の基礎的財政収支（プライマリーバ

ランス、PB）の黒字化目標を堅持しており、23年7月25日開催の

経済財政諮問会議で、岸

田文雄首相は「適切な経

済財政運営や歳出改革を

継続すれば、25年度の国

と地方を合わせた基礎的

財政収支の黒字化が視野

に入る結果となってい

る」と述べた。確かにP

B黒字化が実現すれば財

政健全化への一歩だが、

本稿ではその実現可能性

を吟味してみたい。

財政健全化の鍵を握る

ポイントの一つは、補正

予算や減税などを今後も

毎年実施するか否か、実

施する場合ほどの程度の規模にな

るかだ。例えば、政府は今年11月

上旬、約17兆円の経済対策を閣議

決定し、約13兆円の補正予算を編

(GDP比、%)

基礎的財政収支・財政収支の予測と実績

年度	プライマリーバランス(PB)		財政収支(FB)	
	予測	実績	予測	実績
2015	-3.4	-2.9	-5.4	-4.4
16	-3.1	-2.9	-4.7	-4.3
17	-2.3	-2.2	-4.0	-3.5
18	-2.4	-1.9	-3.8	-3.1
19	-2.2	-2.6	-3.4	-3.7
20	-1.8	-9.1	-2.8	-10.2
21	-2.0	-5.5	-2.9	-6.6
22	-3.6	-5.0	-4.5	-6.0
23	-1.5	-4.7	-2.3	-5.7
24	-1.3	—	-2.0	—
平均	-2.36	-3.68	-3.58	-4.75

(注)基本的にX年1月・2月版の試算の「X+1」年度のPBやFBの値を予測値として掲載。23年度の実績は23年7月版の試算の値を掲載

(出所)内閣府「中長期の経済財政に関する試算」から筆者作成

成した。9兆円弱の国債を追加発行するが、こうした対応を継続する限り、25年度のPB黒字化目標は達成できない。

表は、内閣府の「中長期の経済財政に関する試算」のベースラインケースなどの予測と実績を示したもののだが、19年度以降、PBの

予測と実績の乖離は拡大している。この傾向が続けば25年度PB

黒字化は困難で、政府の債務残高

(対国内総生産、GDP)も増加の一途をたどるシナリオが濃厚だ。

債務残高(対GDP)はどの程度まで膨張するリスクがあるのか。

内閣府が23年7月に公表した最新の試算では、ベースラインケ

ース(24年度以降の名目GDP成長率0・5〜2・5%)で、32年

度の財政収支(FB)の赤字幅(対GDP)

はマイナス1・3%に収まるとしている。

債務残高の収束値は「ドーマー命題」で把握でき、

中長期的なFB赤字(対GDP)をq、

名目GDP成長率をnとすると、債務残高(対GDP)の収束値は「 $q \div n$ 」で計算できる。

内閣府の試算では、FB赤字(対GDP)は32年度以降で拡大基調

GDP比36.5%も?

だが、とりあえず、既述の値からqを1・3%とする。nを199

5年度から22年度までの平均成長率の0・35%とした場合は、債務

残高(対GDP)の収束値は約371%

($1 \cdot 3 \div 0 \cdot 35$)となる。つまり、債務残高(対GDP)は現在の値(約210%)より大幅に膨張する可能性がある。

だが、この試算は甘い。表のFB赤字(対GDP)の予測の平均は3・58%だが、実績の平均は4・75%もある。平均成長率を過去の約3・4倍に見積もり、 $n=1 \cdot 2\%$ としても、 $q=4 \cdot 75\%$ なら債務残高(対GDP)の収束値は395%になってしまう。

日銀は金融政策の微修正を行っているが、長期金利は1%程度に迫っているが、内閣府の試算(23年7月版)で前提とした長期金利も23年度は0・4%しかなく、「異次元少

子化対策」(こども未来戦略方針)の追加的支出や財源は、試算には盛り込まれていない。また、防衛

費増額の財源の前提も甘い。楽観的な推計で財政改革を先送りすれば、そのツケを払うのは国民だ。

PBやFBの予測と実績の乖離を埋め、24年度の財政運営は堅実

に行く必要がある。